ヤマトタケルの伝承地をめぐる

各地にあるヤマトタケル像

古代にヤマトタケルを描いた肖像などはまったくありません。江戸時代後期以降になって、ヤマトタケルの事跡が絵画の題材に採り上げられるようになり、昭和17年（1942）から昭和21年（1946）まで使われた100円札にはヤマトタケルの肖像が用いられています。また、各地のヤマトタケル縁の地に像が建立されるようになり、近年でもモニュメントとしていくつかの像がつくられています。県内では、加佐登神社に石像が、近くには米原市醒ケ井に銅像があります。どこにヤマトタケルの像があるか捜し歩いてみるのはいかがでしょうか？なお、加佐登神社には女装をしたヤマトタケルを描いた絵馬も奉納されています。

能褒野神社 13

能褒野神社はヤマトタケル・オトタチバナヒメ・タケカヒコノオウ（建貝児王：ヤマトタケルの子）を祭神とする神社です。明治17年（1884）能褒野御墓の隣地に設置許可が出され、明治28年（1895）造営が完了し鎮座祭が執り行われました。明治41年（1908）には周辺の県主神社・志婆加支神社・那久支里神社（いずれも延喜式内社）や八島神社などが合祀されました。ヤマトタケルを祀る神社ということで、太平洋戦争終結までは多くの参詣者が訪れました。

加佐登神社 7

加佐登は古くは高宮とよばれ、その中心となる神社とされています。もとは熊野神社が鎮座していましたが、合祀により加佐登神社となりました。ヤマトタケルを祭神とし、境内にはヤマトタケルの石像があります。

白鳥塚古墳 8

加佐登神社に隣接する、全長92mの帆立貝式古墳で、5世紀前半の築造と考えられ、県史跡に指定されています。近世においては白鳥塚をヤマトタケルの墓とする考えが主流で、明治9年（1876）能褒野墓とされましたが、明治12年（1879）に能褒野王塚古墳がヤマトタケル墓と決められ現在にいたっています。

長瀬神社 9

武備塚古墳をご神体とする長瀬神社は、延喜式神名帳にその名が見える「長瀬神社」比定地のひとつです。かつては武備神社とよばれ、明治41年に長瀬神社に改称されました。明和7年（1770）に江戸の国学者建部綾足が境内北端の「車塚」の上に歌碑を建立しています。

鈴鹿王塚古墳 5

鈴鹿市国府町の西ノ野古墳群の中核的古墳で、全長63mの前方後円墳です。6世紀初頭の築造と考えられ、国史跡に指定されています。明治にはこの古墳がヤマトタケルの墓ではないかとする説もありました。

白鳥伝説

日本書紀において、ヤマトタケルは白鳥に姿を変えて飛び立ち、大和国「琴弾原」、さらには河内国「古市」に滞留し、その後天高く飛翔してゆきます。景行天皇は滞留した2箇所にも御陵を築かせました。これが「琴弾原白鳥陵」（奈良県御所市）と「日本武尊白鳥陵」（大阪府羽曳野市）で、いずれもヤマトタケルの墓として宮内庁により管理されています。ただし、これらについても本来の御墓がどこであったかは定かではなく、近代になって比定されたものです。

武備塚古墳 10

長瀬神社本殿奥にある直径25mの円墳で、亀山藩主板倉勝澄によって、ヤマトタケルの墓として整備されました。

散策拠点施設（サテライト施設）：**のぼのの森公園** 12

能褒野王塚古墳、能褒野神社周辺に開設された2.5ヘクタールの公園で、境内林を活かした植生と「居醒泉（醒ケ井）」をイメージした泉水や古代住居を模した東屋など、自然と歴史を融合した公園です。

能褒野神社二の鳥居 17

東海道から巡見道の新道との分岐に、大正15年（1926）に能褒野保勝会によって建立されたものです。

双児塚古墳 11

ヤマトタケルが、オオウスとオウスの双子の兄弟であったことから、この古墳もヤマトタケルの墓とする説があり、これに基づいて幕末の亀山藩主石川成之によって明治時代初めに整備が行われています。小規模な横穴式石室をもつ2基の古墳がならんでいます。

長塚節と能褒野

長塚節（1879～1915）は、正岡子規門下の歌人で、伊藤左千夫とともに短歌誌の『馬酔木』を創刊するなど、子規の後継者として活躍しました。明治38年（1905）10月6日に能褒野を訪れ、「浅茅生のもみづる草に降る雨の宮もわびしも伊勢の能褒野は」「秋雨のしげき能褒野の宮守はさ筵掩ひ芋のから積む」と詠んでいます。『長塚節歌集（2）』

（コア施設）：**亀山市歴史博物館** 1

ヤマトタケルに関するパネル、市内古墳出土品など、亀山市の歴史文化に関する資料が収蔵展示されています。企画展のほかに年数回テーマにそった展示入れ替えを行っています。入館料　大人200円（160円）　学生100円（80円）　※（　）内は20名以上の団体　休館日　火曜日・年末年始　TEL 0595-83-3000

ビューポイント 15（ヤマトタケル国偲びの風景）

能褒野橋から西への眺めは、安楽川と鈴鹿の山並み、そしてヤマトタケルの故郷である大和国への方角を望みます。白鳥となったヤマトタケルの魂はここから望む空へ飛び立っていったのでしょうか？亀山の原風景を味わいながら、ヤマトタケルの物語を体感できる場、それがビューポイントです。

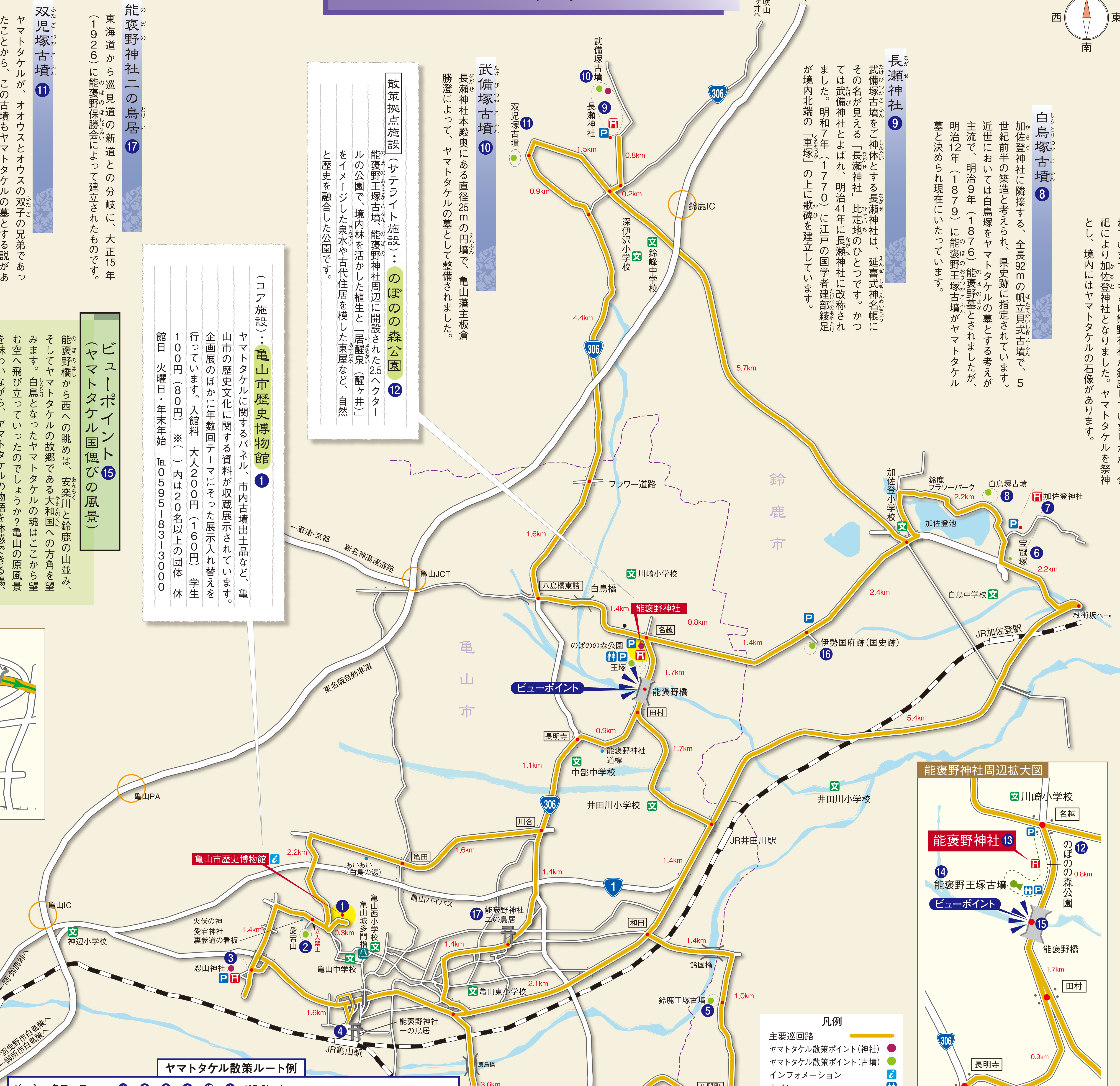
能褒野王塚古墳 14

明治政府によって能褒野墓とされた能褒野王塚古墳は全長90mの前方後円墳です。江戸時代には丁字塚と呼ばれていました。古墳の形状や埴輪から4世紀末の築造と考えられています。埴輪の側面には鰭状の粘土板が付くことが確認されており、古墳時代中期初めごろの奈良県北部地域との関係が考えられています。なお、のぼのの森公園の噴水や水のみは、能褒野王塚古墳から発見された埴輪を原寸大で復元したものです。

能褒野神社一の鳥居 4

柱石の高さ6.9m、笠石の長さ10mの大鳥居で、かつては亀山駅から亀山城跡への県道に建てられていましたが、道路拡幅工事に当たって、駅前のロータリーへ移設されたものです。この鳥居は大正15年（1926）2月に能褒野保勝会によって建立されたものです。能褒野保勝会は大正13年（1924）に能褒野御墓・能褒野神社の顕彰を目的として設立されました。

「東海道歴史文化回廊」の散策に当たっては次の点にご留意ください。
- 各ルートは歴史文化を楽しむ場と同時に、生活の場でもあります。マナーを守って散策をお楽しみください。
- ルートに設定した道は、生活道路であるため交通量が相当あります。歩行中の安全は各自十分お気をつけください。
- トイレ・駐車場はルートごとに設定したコア施設、サテライト施設のものをご利用ください。
- ゴミは必ず各自お持ち帰りください。



凡例

- 主要巡回路
- ヤマトタケル散策ポイント（神社）
- ヤマトタケル散策ポイント（古墳）
- インフォメーション
- トイレ
- 駐車場

ヤマトタケル散策ルート例

ベーシックコース	…1→2→3→4→17→1　(13.9km)
ショートカットコース	…1→2→3→4→15→13→12→14→1　(15.9km)
ショートコース	…1→2→3→4→5→6→7→8→16→12→13→14→15→1　(33.8km)
ロングコース	…1→2→3→4→5→6→7→8→9→10→11→12→13→14→15→1　(47.5km)